市長が行く

No.129

茂原市長　田中豊彦

効果的な情報伝達ツール

今年もまた台風の季節がやって来ようとしています。温暖化の影響による災害の激甚化で、近年は特に、天気予報を見るたびに、台風が発生したとか、低気圧が近づいてくるとか、何が起こるか分からないという不安を感じるようになりました。

一昨年の豪雨による茂原市を襲った河川からの越水等は、市内に多くの被害をもたらしました。県では一宮川改修事務所を設け、令和11年度末までに改修工事を行っていくとのことですが、市としても内水氾濫が起きないような対策を順次行っているところではあります。

一方、コロナ禍における避難所の設営に関しても、密にならないようにスムーズに避難生活ができるよう準備を進めています。ただここで難しいのが、災害時の正確な情報伝達の方法です。いわゆる避難指示や、避難所や救援物資等に関する情報をどうやっていち早く市民に伝えるかということです。

市としては、今までにも、情報発信力の強化を目的とし、市民の方々がさまざまな媒体から情報を得られるように取り組んできました。それらは主に平常時において発信されているものですが、次のようなものがあります。市公式ウェブサイト、広報もばら、マチイロ(広報紙アプリ)、もばら生活ガイドブック（情報誌）、Facebook、Twitter、Instagram、YouTube、Yahoo!防災速報（災害情報、市からの緊急情報）、もばら安全安心メール（市からの防災・防犯に関する情報）、自治会回覧見逃し配信サービスなどです。

しかし、これらの情報発信が果たしてどのくらい利用されているのかはよく分かりません。多くの市民の方はこれらの情報を見ていないのではないかと感じられることもありました。そのため、もっと市民の方がいち早く情報をつかんでくれるような媒体はないものかとの模索はいまだに続いています。防災無線は有効的な手段ではありますが、騒音に対する苦情や、また反対によく聞こえないという苦情が多く、その都度、有線放送を使ったらどうかとか、戸別受信機を各戸に設置したらどうかなどの案が出されてきました。が、有線放送も、戸別受信機もコストがかかるなどの問題があり、今はその時その時の状況に合わせて防災無線を使わせていただいているのが現状です。

新型コロナウイルスの蔓延により、公立の小中学校でのウェブ授業を実施する体制の遅れが浮き彫りになりました。新型コロナワクチンの接種予約時にも、まだまだ高齢者はインターネットで予約を取ることが得意ではないことが判明しました。情報社会などと言いながら、そしてほとんどの人がスマートフォンや携帯電話を持ちながら、日本はいまだにアナログが幅を利かせています。